

西村寿雄さんの「地球の発明発見物語」について 実藤 清子

私は国土社から出版されていた『発明発見物語』のうち

18巻 宇宙の発明発見物語

19巻 地球の発明発見物語

20巻 物理の発明発見物語

が、出版されていないことを知らず、どんなことが書かれているのかと、それらの本との出会いを楽しみにしていました。

その『地球の発明発見物語』が、西村寿雄さんによって今回出版されたことを知って、とてもうれしく思いました。

西村さんは後書きに、この本の誕生の由来を書いているらしいです。後書き全体に西村さんの思いが詰まっていて、是非そちらを読んでいただければと思うのですが、一部を紹介させていただきます。西村さんの思いが伝わると判断したのです。

2003年5月、板倉さんから「この本はおもしろいよ」と紹介された本が熊谷信一・小嶋公長著『地球物語』（民友社1949）です。

この本は、たんに地質学の知識を網羅した本ではなく、〈地質学の発明発見〉を物語風にした本です。〈地質学の発明発見物語〉のいい本がない中で、私はこの本にとっても興味がわきました。「これは、現代の目で書き直すとおもしろくなる」と即座に思いました。

しかし、この本は内容も文体も古いので、今の子供たちには、そのままでは読めそうにありません。そこで、私なりに書き直しにかかりました。

『地球物語』にある楽しそうなストーリーを受け継ぎながら、地質学の内容については、私なりに一つ一つ調べなおし、子供たちが楽しく読めるようにフィクションをからめた内容に仕上げました。・・・・・・・・

さらに、『地球物語』以後に発見された

(12)「大地は動いた」と仮説をたてたウェーゲナー

(15)「石ころにひそむチャートの不思議発見物語」も加えて、

本文は

- (1) 人間の歴史から地球の歴史へ
- (2) 「大地は変化する」と説いたピタゴラスとストラボ
- (3) 化石の研究を始めたレオナルド・ダ・ビンチ
- (4) 「化石は生物の遺骸」と説いたステノ
- (5) 「地球は火の玉」と発表したビュウホンとデマレ
- (6) 花こう岩の謎ときにかかったハットン
- (7) 地層の年代をひもといたスミスとマーチンソン
- (8) 古代生き物をよみがえらせたキュビエ
- (9) 「地表の変化はゆっくりすすむ」と説いたライエル
- (10) 氷河の石を発見したアガシイ

など、23項目の豊富な話題が登場してきます。

地質学者一人一人の物語が実に読みやすいのです。情景が想像できるのです。自分の不十分な知識もその意味と共に補充されていきます。後半の地球の地形に魅せられた人々の話も何が登場するのか楽しみです。

巻末には、参考図書、歴史上の地質学者一覧・年図がまとめられていて、この一冊に著者の研究の成果がまとめられていることにも気がつきます。

私は、この地質学者一覧表の名前で、この本に登場した人々の名前を赤い枠で囲み、右側に簡単な要約を書いてみました。その結果、著者が地質学史全体を見て、本文の話題を選んでいることに気づいて、深く感動しました。大人にも充分役立ち楽しめる内容になっているのです。

おかげで、私の世界に『地球の発明発見物語』も入ってきて、こんな出会いを楽しめることに感謝しています。